

今年7月にコスタリカを訪問されたTさんから寄稿いただきました。コスタリカは1949年、憲法で軍隊を保持することを禁止した国で、動乱の多い中南米で長く平和国家として歩み続けています。

軍隊を持たない国 コスタリカ

— 人に投資する平和国家の歩み —



コスタリカの概要

- **位置** 中米に位置し、北はニカラグア、南東はパナマに接しています。
- **人口・面積**
人口：約540万人（2024年） 面積：51,100平方キロメートル（北海道と九州を合わせたほどの大きさ）
- **経済規模**
名目GDP：約7,800億米ドル（2024年、IMF推計）
中米では比較的大きな経済規模を持っています。
- **主要産業**
観光業、コーヒーやバナナなどの農業、医療機器や電子部品などの製造業、IT関連産業が成長しています。
- **スポーツ**
サッカーが国民の人気を誇り、ワールドカップにたびたび出場し、好成績を収めています。



軍隊を持たない国 ～ 平和を選んだ歴史 ～

コスタリカが軍隊を廃止したのは、1948年の内戦がきっかけでした。内戦終結後、ホセ・フィゲレス・フェレル率いる新政府は、同年12月1日に軍隊の廃止を宣言しました。その理念は、1949年に制定された新憲法の第12条に明記されています。

憲法第12条（抜粋）

「常設の軍隊を廃止する。国の防衛は、法律が定めるところにより組織される警察力によってのみ、これを保持する。」

以来、コスタリカは軍隊を持たず、国防は必要最小限の警察組織（公共安全省）が担っています。軍事費に使われていた財源を**教育、医療、福祉、インフラ整備**などに振り向けることで、**「人に投資する国家」**づくりを進めてきました。



民主主義と人権を守る仕組み

- ◆ **最高裁判所 憲法小法廷（サラ・クアルタ）**
国民の基本的な人権を守るために設置された特別な法廷です。国民は、行政や法律によって自分の基本的な人権が侵害されたと考えた場合、比較的容易に「アンパロ（保護訴訟）」を起こして、迅速な救済を求めることができます。これにより、政府や行政の権力をチェックし、人権を実効的に守っています。
- ◆ **選挙最高裁判所**
選挙を管理する独立機関で、選挙の実施から結果の確定までを一貫して担当します。政権や政府から独立しているため、公正で透明な選挙が行われ、民主主義の基盤を支えています。



教育と医療を国民に無償で提供

- ◆ **教育**
幼稚園から高校までの公教育は原則無料です。また、国立大学も授業料が低額で、多くの学生が高等教育を受けることができます。高い識字率（97%以上：UNESCO推計）を誇り、中米でも教育水準の高い国の一つです。
- ◆ **医療**
公的医療保険制度（Caja Costarricense de Seguro Social：CCSS）により、すべての国民が医療サービスを基本的に無料で受けることができます。プライマリーケアから専門医療まで幅広くカバーされ、平均寿命は80歳を超えています。



おわりに ～ 平和と人権を大切にする国のモデル ～

軍隊を持たないことは、単なる平和主義の象徴ではなく、「人に投資する国家」という理念を制度として実現した試みです。平和、民主主義、人権、教育、医療を重視するコスタリカの歩みは、軍事力に依存しない安全保障と豊かな社会のあり方を考えるうえで、世界に多くの示唆を与えてくれます。



参考文献

- ・足立力也『平和をつくる教育』岩波ブックレット（岩波書店）
- ・足立力也『丸腰国家』扶桑社新書（扶桑社）
- ・足立力也『平和ってなんだろう』岩波ジュニア新書（岩波書店）



◆9月のつどいはありません

◆10月のつどい 10月18日（日）内容は未定です

Act Now 1(イチ)の日行動にご参加を！

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No.1 九条 壊すな！」の **アピール行動**を続けています★

次回は2026年10月1日(木)18:30～19:30（ペンライト action）

広島大会は、8月3～4日の国際会議で核兵器をめぐる世界情勢と活動の方向性をまとめ、5日の分科会で深められ、その内容が6日に決議された。外国からの政府・市民団体の参加が基本。8月4日～6日に参加し、兵庫からの参加は120名、会場は3200名。

4日

●韓国から民主労組など70名が参加。韓国は武器輸出で世界4位。世界では極右勢力が台頭して、労働者と少数者を差別してきているが、人間が優先される社会のため、労組と市民団体の連帯が必要。

●アメリカの民主的社会主義者(DSA)からは、NYのマムダニ市長だけでなく、各地でDSAが躍進。アメリカの戦争マシンをやめさせ、正義と安心が存在すること。資本主義を変えなければならない。「団結した人民は決して負けない」とのアピールには大拍手。●横須賀ではトマホークの配備決定を受け、平和委員会が署名32,000筆集め、変化が起きている。●広島への「国民平和行進」の「通し行進者」の中に、外国の方がいたのには驚いた。●被爆者の訴えや子どもによる平和の歌。等

5日

●分科会9は「気候危機、エネルギーと原発」。講師はプロダイバー・環境活動家の武本匡弘さん。気候危機は人類共通の課題で、戦争・軍事行動が解決を阻害。日本周辺の海水温度が世界一高いのは、原子力・火力発電所の温水排出が原因。エネルギーを地産地消する政策転換を。地元の藤沢市に9条の碑を昨年に建立。●夕刻には相生橋でペンライト行動。

6日

●8時から市主催の平和式典は形式化されており、今回はテレビで視聴。昨年と比べて、私の評価は「まだまし」の横田知事、「他人まかせ」の松井市長、「被爆国としての意識、全くなし」の高市首相。「非核三原則を堅持している」といいながら、世界の安全保障環境の厳しさから「現実的かつ実践的に対応する」と被爆者の声を無視。●10時からの閉会集会 スペインの国際反核医師の方は、核戦争を止めるには核兵器廃絶という治療法しかない。アメリカNYの大学生は、平和サークルを再建したところ、反核の賛同者が広がっている等の発言から勇気づけられた。今年は若者の参加が多く、また充実した大会だった。(竹の台 島田徹)

親子づれでも気軽に参加戴ける夏休みイベントとして、紙芝居ボランティアグループ(代表:山木梨花さん)による朗読と紙芝居、それに当会会員による手品ショーを開催しました。子供9名を含め、50名の参加を戴きました。中でも「チラシを見て、子供と来たよ」という方が結構多くて、有難かったです。

朗読では長谷川義史さんの人気絵本「へいわってすてきだね」に続いて、弁護士の田中幹夫さんの少年時代を描いた「いくさの少年期」が、紙芝居では、ユーモラスな日本民話の定番「ねずみのよめいり」が上演されました。太鼓やキーボード、ラジカセ録音を用いた効果音に加え、迫力満点の語り口で、空襲のシーンなどリアリティあふれた朗読と紙芝居でした。ちょっと難しい内容も含まれていましたが、見入っている子供さんもいて、響け9条のペンライトアクションと同様、「視聴覚のパワー」を再認識できました。

手品ショーは、手作り感満載で、少しドジったりもされましたが、笑いを誘い、会場の雰囲気や和らげて戴きました。

回収したアンケートによれば、「すごかった。はくりよくがあった。きてよかった!!」、「いろんな音などくふうがあって、ひきつけられました。」という子供さんらしい感想とともに、「子供がとても喜んでいました。」、「ちょっと子供には難しかったかも・・・」、「でも平和を考える機会は今の時期、とても大切」といったお母さんの声も戴きました。

今回、未来をつくる子供たちの心に、平和を考える「小さな種」を植え付けることができたとしたら、将来、「踏みつけた命の数だけ、抱きしめることのできる」人に育ってくれることが期待できそうです。

(竹の台 タイガー)



お題「予感」

上司運 嫌な予感は よく当たる (骨歩)

自由題

被災者を 空から拝む 「高位置」さん (空耳)
怒らせて 器量を量る 酒の席 (伝伝)

10月のお題は「虫」

y-onishi@live.jp

投句をお待ちしています。

ジョー句